

体験出合いの森のフィールド 整備の進め方について

岩手北部森林管理署

○総務係 寺下 恵
管理係 木戸口 雄介
森林官 長 岐 務
森林官 葛 西 真規

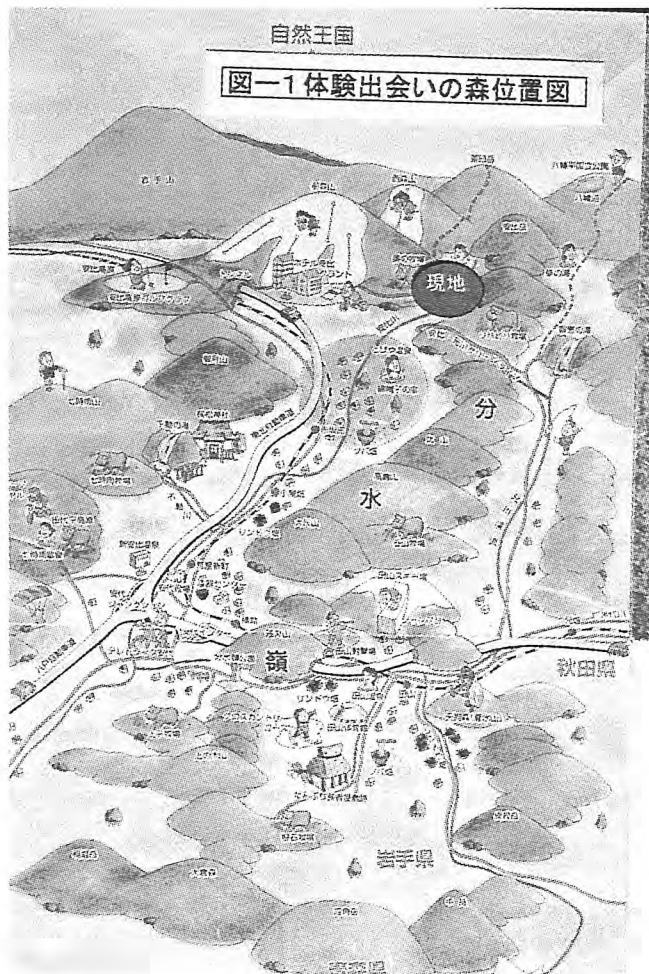
1 はじめに

近年、自然環境をめぐる話題がマスコミに大きく取り上げられるようになり、国民の森林に対する関心が大きな高まりを増している。

こうした中で、平成10年10月に国有林野事業改革関連2法の成立により、木材生産機能重視から公益的機能を重視した施業へ政策転換が図られたところである。

岩手北部森林管理署では地域との結びつきを重視するため、以前から安比高原のブナ二次林・米代川源流のガイドや地元小・中学生等へ、林業体験のフィールドを提供するとともに、森林のもつ機能等について講演を行うなど、積極的に取り組んできたところである。

今後更に、国有林を名実ともに開かれた国民の森林とするため、平成11年2月18日の中央森林審議会の答申を踏まえ、「体験出合いの森」づくりのためのプロジェクトチームを作り取り組むことにしたので、その経過を発表するものである。



2 具体的な取組について

(1) フィールドの概要について

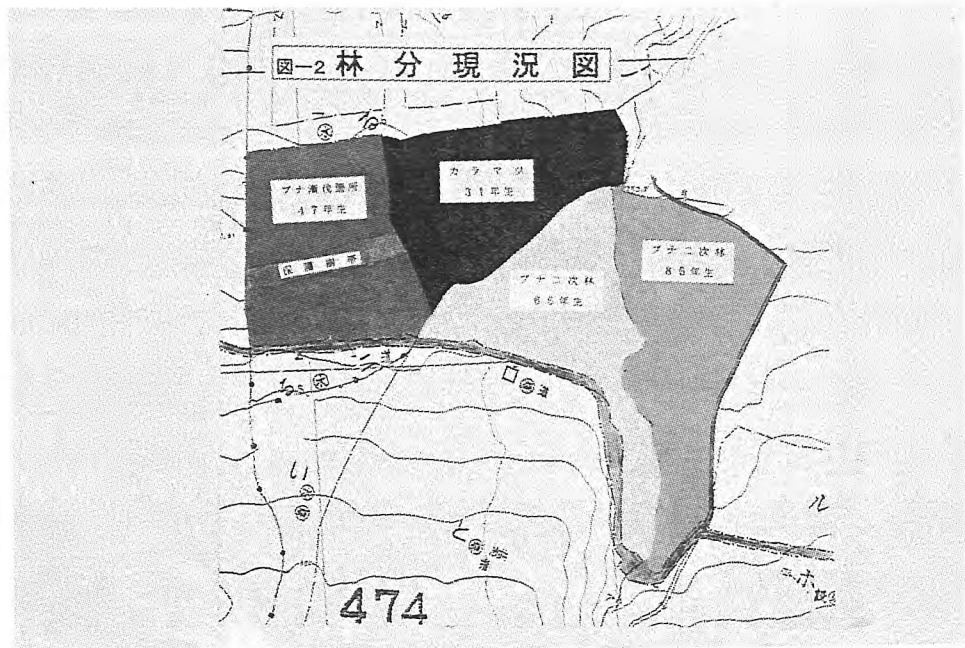


(写-1) 安比高原ブナ二次林

安比高原の一角に、施業指標林である「ブナ二次林」がある。このブナ二次林はS61年4月、緑の文明学会が選定した『森林浴の森100選』に選ばれた、天然更新によりブナが群生する酸素いっばいの森であるが、施業の制約上、主にブナ林散策等を楽しむエリアに止まっている。

こうした中、訪れる観光客や修学旅行生が年々増えてきていることから、近年の国民の森林に対する多様なニーズに応えていくためにも、更に一步踏み込み、林業体験のできる「体験出合いの森」の区域をこの周辺に選定してはどうかということで、既存の入林状況や森林の現況等の因子を基に検討を重ねた。

その結果、選定区域は安比岳国有林469林班を中心に(図-2)面積約35HAとした。海拔高は780M前後で一帯は概ね



平坦地であり、林分状況は、カラマツ人工林(31年生)約9HA、ブナ漸伐箇所(47年生)約8HA、ブナ二次林(65~85年生)約18HAとなっている。

また、機能類型は、全て森林と人との共生林・森林空間利用タイプである。

(2) 青写真の作成について

青写真の作成にあたって、地元小・中学生(約100名)に「森のアンケート」を実施した結果、主な内容は(図-3~5)のとおりである。

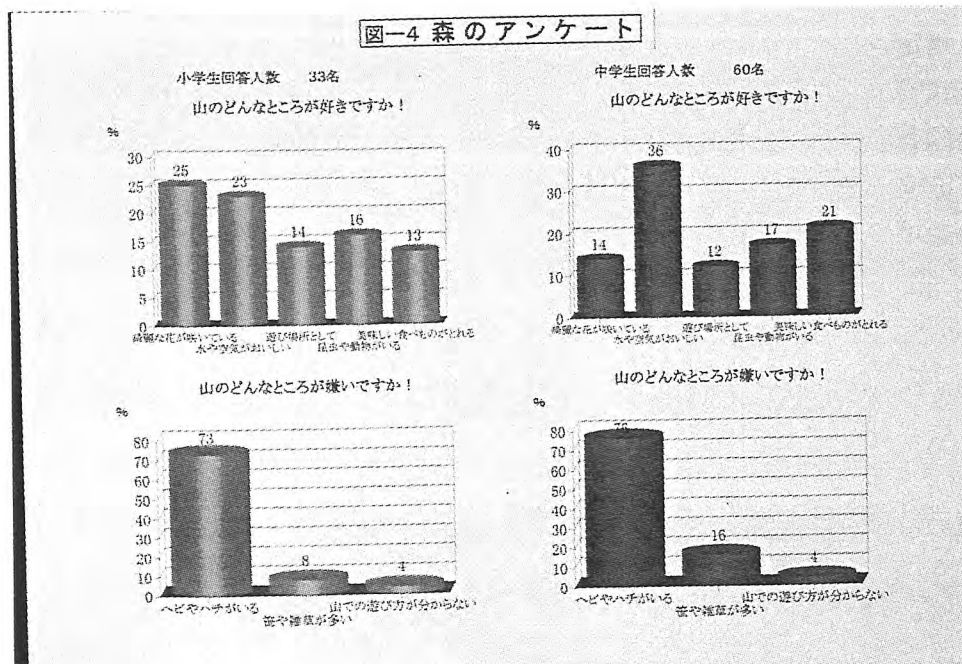
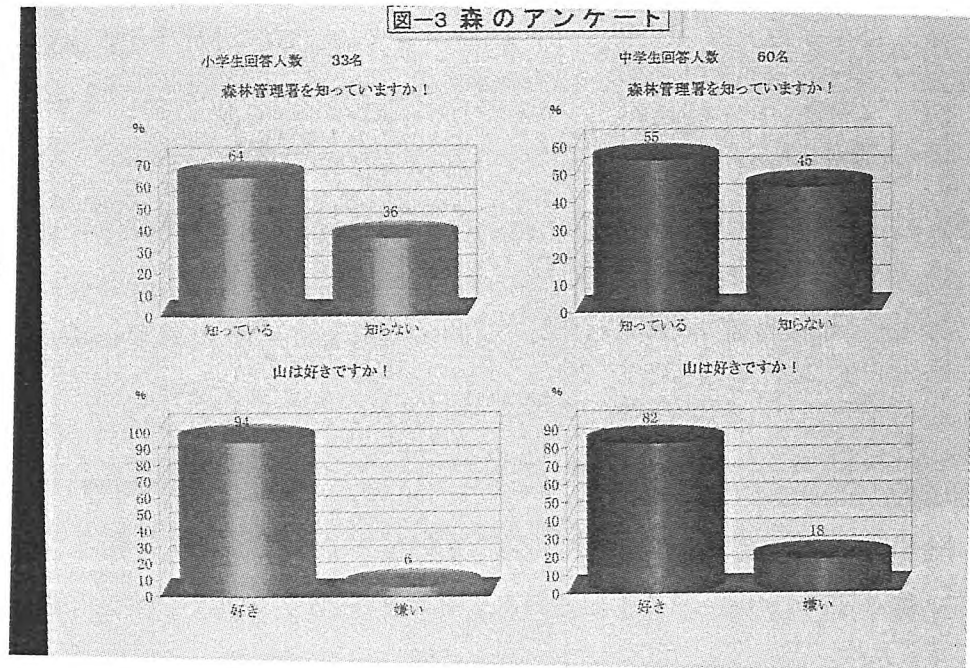
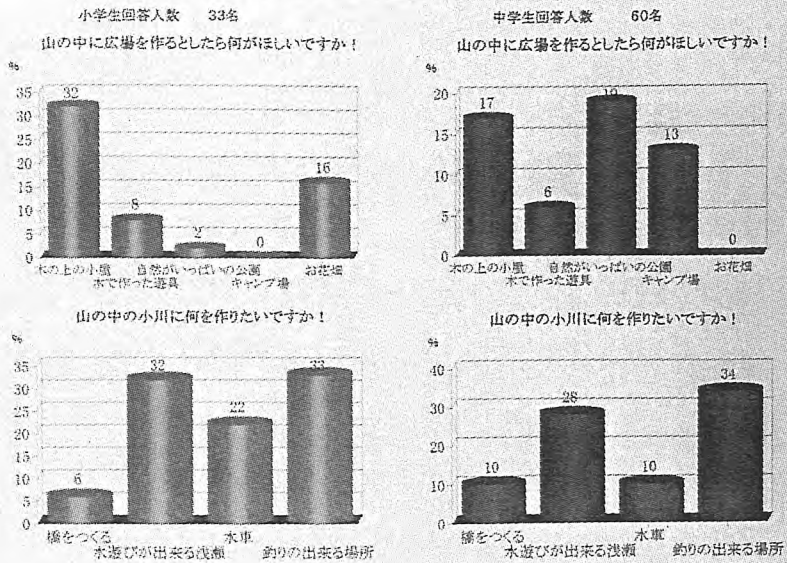
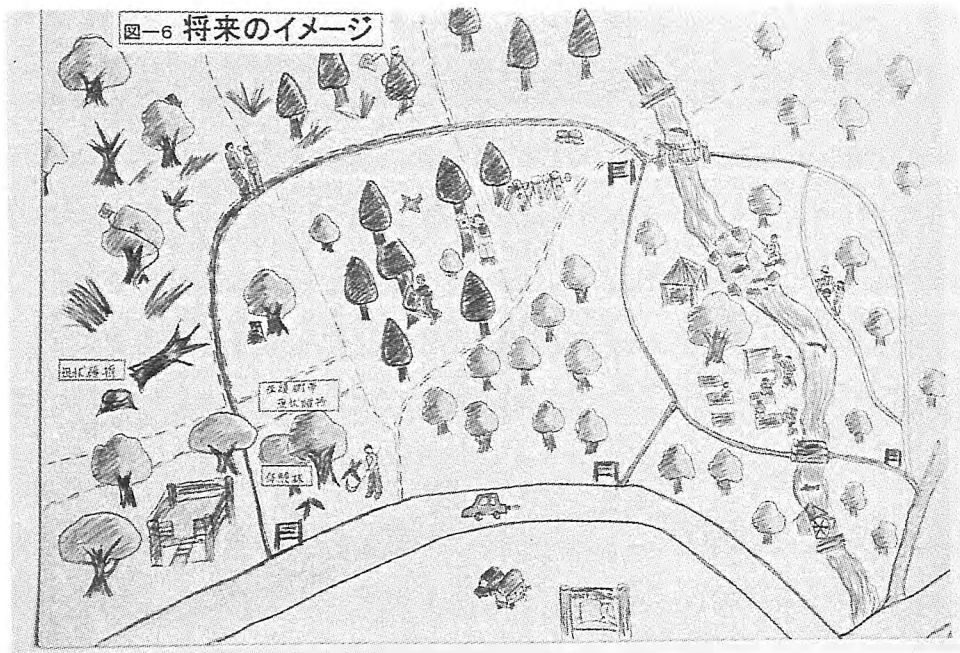


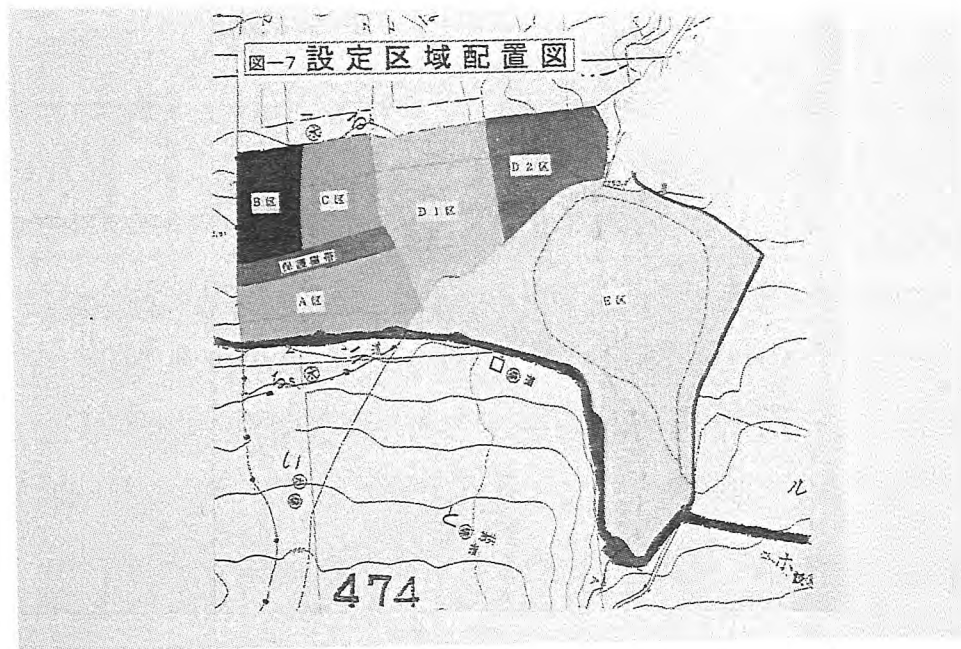
図-5 森のアンケート



プロジェクトチームではこの結果を参考とし、子供たちの希望が多い施設等も取り入れるなど検討を重ね（図-6）青写真を作成した。



更に、「体験出会の森」の設定区域（図-7）を次の6区画とした。



A 区 体験の森として、小・中学生及び一般の人たちにフィールドを提供し、除伐等の保育を行う区域。

また、散策路周辺にヤマザクラ・カエデ類等を植栽し、春から秋まで訪れた人達を楽しませる。

B 区 手を加えないで原生的ブナ林とする区域。

C 区 出会の森として、各イベントや広報活動等によりPRを行い、森を訪れた人達がそれぞれ現存する樹木を記念樹と決めてネームプレートを付け、将来に夢を託し自ら手入れをしていく区域。

D1 区及びD2 区

この区域は、カラマツの造林地であるが、間伐率（D1 区 20% D2 区 30%）を変えることによって林分がどのように推移していくかを検証する。

このことは、将来的に天然林へ誘導していく場合、針葉樹から広葉樹への森林施業の指標にもなるのではないかと考える。

E 区 現状のまま森林に手を加えない区域。

この区域は、人と森林のふれあいを目的とし、広場・あずま屋・樹木板等を設け自然と親しむフィールドと森林教室のできる学習の場を提供する。

将来は、車椅子ロードを作設し、誰もが森林とふれあうことが出来る森づくりを進めていく。

(3) 11年度実施事業について

昨年10月末、地元自治体、安比総合開発K・K、安比高原周辺のペンション関係者、民宿組合等による「中の牧場」の環境整備事業打合せの際、当署の「体験出会の森」づくりについて意見交換した。



(写-2) 「中の牧場」環境整備

その中で、実際に国有林を林業体験のフィールドとして提供してほしい、観光客の急増に伴いゴミ対策を森林管理署として考えてもらいたい、等々の意見が出されたところである。

また、プロジェクトチームによりブナ二次林箇所へ散策路を設定した。

これは(写-3~4)のとおり殆ど刈り払い等は必要なく、まさに森林浴に適したどこでも歩ける散策路である。



(写-3) 「出会いの森」散策路



(写-4) 「出会いの森」散策路

(4) 今後の展開について

昨年12月に地元自治体、安比総合開発K・K、安比高原周辺のペンション関係者、民宿組合等に広く声をかけ、実施事業の要望等を聞き検討した結果、

12年度は、①施業指標林のブナ二次林へ結ぶ散策路を選定する。更に②散策路等の案内板設置 ③記念樹の森(仮称)の踏査及び設定 ④育樹祭の実施等

13年度以降については、次のような施設の設置等を考えている。

- ① 森林教室の場所の設定(椅子・木板含む)
- ② 簡易な丸太橋(間伐材利用)
- ③ 巣箱かけ
- ④ きのこの森づくり
- ⑤ 車いすロード作設
- ⑥ あずま屋の設置
- ⑦ ウッドデッキの設置
- ⑧ 案内板の設置

しかしながら、施設の設置等には、経費が伴うなど難題が山積みしている。これをどう克服していくのか、今後プロジェクトチームに課せられた課題である。

この「体験出会いの森」づくりは、安比高原周辺の関係者と一体となり、更に広く観光客(ボランティア)にも呼び掛け森づくりを進める考えである。このことから実施事業の具体化に向け、今春早々(5月中旬)地元自治体、安比高原周辺の関係者等で「体験出会いの森」の打合せ会を開催し、地元の人たちの声も反映させながらより良い「体験出会いの森」づくりに取り組んで行きたいと考えている。

3 おわりに

この「体験出会いの森」づくりは、スタートしたばかりであるが、昨秋には散策路を利用し森林浴を楽しむ観光客が見受けられた。



(写-5) 森林浴を楽しむ観光客

国民の森林づくりの機運が高まりつつある昨今、21世紀にふさわしい、国民の森林に対する多様なニーズに応えていくためにもプロジェクトチームが中心となり、地元自治体・安比高原に係わる多くの人たちにも参加してもらい、森林整備等を図り、名実ともに国民の森林につくり上げていきたいと考えている。

今春、若葉も萌える頃、安比高原「体験出会いの森」へおいで下さい。